



北西の強風が吹き、波頭が白く見えました。風速10ノルはあるようです。そのため水鳥の姿はほとんどなく、林の鳥もあまり出てきませんでした。強い風を避けるように樹林地や丘の風下を移動しました。池の南にある田んぼ付近から、百年の森を通り、防災ヘリコプターの発着する空き地まで行って戻りました。



右下にオオバン

カワウの営巣する島が風よけになっています。風下側は波穏やかで、その外側に波頭が見えます。境目は水底までかき混ぜられるのか土の色をしています。ここでかろうじてオオバンを見つけました。



クスノキホソガ?食痕

ネットではこれが該当しました。ホソガは正に細い蛾です。



←ナラウススジ  
ハマキホソガ  
(自前ではこのホソガのみ)

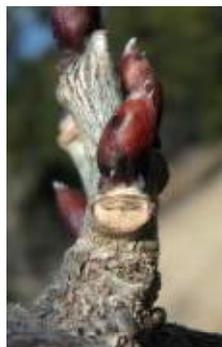


ヤママユガの空繭

コナラの高い梢に見え隠れしていました。強風にも耐えています。それもそのはずで繭を作る前に、糸を束ねて枝にしっかり絡ませているのです。

冬芽のいろいろ

冬芽の大敵は乾燥です。暖かい春になっても乾いてしまっは芽を吹くことはできません。左のような冬芽(鱗芽)をよく見かけます。右下のクサギの冬芽(裸芽)には鱗が見られず、もとは南の植物であったからのようです。冬芽の下に見えるのは、葉痕(葉が落ちた痕)です。木によって模様(維管束痕)が違い、顔のように見えるものがあります。



鱗のようなものをかぶった冬芽(左から、



コナラ、フジ、ソメイヨシノ、ミヤマガマズミ、サワフタギ)、(右下)クサギ



### ニセアカシアの冬芽?

薄くなっている所は葉の落ちた痕で、その上にあるはずの冬芽が見当たりません。この木の冬芽は葉痕の下に隠されています。



### ウツキコモリグモの雌

ウツキは「卯月」で陰暦4月です。春から秋まで畑や田んぼで普通に見られます。暖くなる頃、雌がおなかの先に卵のうを付けて走り、その後孵化した子グモを背中に乗せているのを見るようになります。



### ツヤアオカメムシ

緑色で、最近一番よく見かけるカメムシです。似たものに(下左)アオクサカメムシと(右)ミナミアオカメムシがいます。



### ホタルガの繭(幼虫で越冬)

幼虫がヒサカキの葉を食べるホタルガのものだと思われます。普通は葉が上に被さっているのですが何かの拍子に開いてしまったものようです。



### カルガモ

北側の岸近くにいました。この風でカモ類が見られず、オオバン以外で唯一見つかった水鳥です。雄と雌で違いはありません。渡りをしない大型のカモでいつでも見られます。



### 2/14の愛知池 で見たミサゴ

遠くから、脚で獲物をつかんでいるのが分かり、近づいて来たので魚の形が分かりました。



鯉のような大きな魚で意気揚々と運んでいるようでした。ミサゴは前日(13日)にもいたのですが、波高く狩りは困難ではないかと思っていました。

**植物** 田んぼ(コオニタビラコ、オオイヌノフグリ、オランダミミナグサ、カラスノエンドウ)、冬芽(アキニレ、イボタ、コナラ、ムラサキシキブ、アカマツ、サワフタギ、クサギ、ミヤマガマズミ、ヤマモモ、ユキヤナギ、フジ、スイカズラ等)、苔(エゾスナゴケ、ハイゴケ)、**昆虫** 蛾の幼虫(オオミノガ)、ヤママユ繭、クスノキホソガ食痕、ホタルガの繭(ヒサカキ)、ムネアカハラビロカマキリ卵のう、オオカマキリ卵のう、カメムシ類(ツヤアオカメムシ、クリオオアブラムシ卵、チュウゴクアミガサハゴロモ産卵痕、蟬羽化殻(ツクツクボウシ、ニイニイゼミ)、**蜘蛛** ジョロウグモと卵のう、ナガコガネグモ卵のう、ウツキコモリグモ、**鳥** ミサゴ、ジョウビタキ雄、シロハラ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、メジロ、シジュウカラ、オオバン、カルガモ、**その他** 虫こぶ(イスノキエダチャイロオオタマフシ、イスノキエダナガタマフシ、イスノキハタマフシ)、菌(アラゲキクラゲ、背着性のきのこ、地面の地衣類2種)、カメの卵殻、ミズ糞(田んぼ)、モグラ塚

次回:3月13日(木)最終日 午前9時30分 水資源機構・P前 雨天中止 参加費100円